

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

山形県

学校名

西川町立西川中学校

人権課題

子ども

対象学年・
取り扱った教科等

全学年

目標・人権教育のねらい

- ・ 自他の生命を大切にし、誰とでも協力し友好的な関係を保っていく態度を育てる。

実施した内容

- ・ 道徳の時間にいじめ・思いやり、感謝・友情、信頼・相互理解、寛容等の題材について学習した。
- ・ 人権擁護員の方々と「人権の花」を植栽し世代間の交流を図りながら、自他の生命を尊重する意識を高めた。

工夫した点

- ・ 人権擁護員の方との共同作業で「人権の花」の活動を行うことで、他者意識を高めた。
- ・ 日頃の「人権の花」の世話を通して、自己有用感を高め、他を思いやる心を育むようにした。
- ・ 生徒会が中心に行うことで、主体的に活動できるようにした。

他教科との
関連

道徳科 生徒会

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

山形県

学校名

西川町立西川中学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等

中学3年 社会科

目標・人権
教育のねらい

- ・西川町の人口の多くを占める高齢者の方々に対しての偏見や思い込みを取り除き、高齢者の人権を尊重し、共に生きていく意識を育てる。
- ・持続可能な社会を作っていく時間の不可欠な要素として、「高齢者の方々の智恵」「高齢者の方々がこれまで生きてきた人生」を学ぶ中で、共生社会を作るための土台作りを行う。

実施した内容

- ・新聞記事やニュース、社会科の教科書や資料集などを活用して、高齢者の方の人権課題を小グループの活動を通じてまとめる。
- ・町内の伝統的な芸能について研修の場を設定したり、町内で過去に発生している自然災害などについて高齢者の方から話を聞いたりして、高齢者の方が身につけている知恵や技を学ぶ。

工夫した点

- ・具体的な数字データを活用する事で、「人口減少先進地域」としての「西川町」「山形県」の特徴を認識し、西川町が直面している「高齢化」の問題が、今後「日本の高齢化問題」を考える。
- ・西川中で推進している、持続可能な社会の実現のためには、高齢者の方々の持っている知恵や技を積極的に取り入れていくことが重要であるということについて、生徒が着目できるようにする。

他教科との
関連

- ・社会科にて、基本的人権について学習するとともに、総合的な学習を通じて体験の場を設定。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

山形県

学校名

西川町立西川中学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

中学3年生・社会科

目標・人権
教育のねら
い

- ・障害者に対する偏見や思い込みを取り除き、障害者の人権を尊重し、共に生きていく意識を育てる。
- ・障害者の現状や課題、障害者を支援し、擁護している機関の取組について理解を深める。障害者に対して自分達ができることを話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりする。

実施した内
容

- ・新聞記事やニュース記事、教科書の資料や資料集から、障害を持っている方々が生活する上での困り感や改善する必要があることについて、意見を出し合う。(1時間)
- ・ノーマライゼーションに基づく社会を作っていく時に、自分達ができることを考える。
(1時間)

工夫した点

- ・今年度実施された東京2020「パラリンピック」なども教材として取り上げ、生徒が、障害者に関するテーマをより身近な問題としてとらえ、多面的多角的な視点で意見を出し合えるようにする。
- ・様々な人々が「平等に生きる」ための一つの手立てが、ノーマライゼーションであり、行政だけでなく、私たち一人ひとりの思いや工夫、声かけにより社会が変化していくことに気づけるようにする。

他教科との
関連

道徳科の親切・思いやりについて学んだ。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

山形県

学校名

西川町立西川中学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等

中学3年社会

目標・人権
教育のねら
い

- ・アイヌの人々に対する人権問題と近年増加している外国人労働者とその家族、また在日朝鮮韓国人の方々に対する人権問題を比べて考えることで、異文化を理解する事や「共生できる社会づくり」をめざす態度を育成する。

実施した内容

- ・教科書や資料集、新聞記事などを参考に、日本で生活している「マイノリティー」について理解を深めるために、グループで協力して詳しく調べる。(1時間)
- ・調べた内容や日頃から感じていることなどを交流し、自分達でできることを考える。(1時間)

工夫した点

- ・山形県が早くから「外国人花嫁」の問題を含めて、異文化理解が必要な地域であった事に触れ、「身近な問題」として「マイノリティー」の方々への視点を持つことの重要性が認識できるようにする。
- ・アイヌの方々についての人権問題を学習する事は、生徒会で取り組んでいるSDGsとつながっていることにも触れ、常にグローバルな視点からのアプローチであることを認識する。

他教科との
関連

- ・道徳科にて、相互理解・寛容について学習した。

令和3年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

山形県

学校名

西川町立西川中学校

人権課題

インターネット

対象学年・
取り扱った教科等

全学年 学級活動

目標・人権教育のねらい

- ・将来の主権者として、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見出した情報を活用しながら他者と協議し、新たな価値の創造に挑んでいける意識を養う。
- ・今後も進化する情報化社会で生きていくために求められる、情報モラルについて、人権の視点のみならず、知的財産権など自他の権利を尊重し情報化社会での行動に責任を持つ意欲と態度を養う。

実施した内容

- ・タブレットを活用し、ネットによる様々な「人権侵害」につながっている事例をグループごとに集め、その問題点について交流する。(1時間)
- ・情報化社会で、主権者としてより良く生きていくために身につけるべきスキルやモラルについて意見交換し、グループ内でまとめ、交流する。(1時間)

工夫した点

- ・日々報じられる「新聞記事」「各種ニュース」で扱われる「ネットやSNS」の問題を意識的に教室内に掲示し、日常的に生徒達の中で意見交換が行われる環境を作る。
- ・昨今、問題となっている「いじめ問題」の多くのケースで、ネットが使われていることも踏まえ加害者・被害者にならないために求められることは何かという視点を取り入れ、当事者意識をもった学習ができるようにする。

他教科との
関連

- ・技術科にて、情報の取り扱いについて学習した。